

# 1. 評価結果概要表

作成日 2007年12月9日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1270101825
法人名	株式会社メデカジャパン
事業所名	大森台ケアセンターそよ風
所在地	〒260-0811 千葉県千葉市中央区大森町250-1 (電話) 043-305-1701

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成19年12月5日	評価確定日	3月30日

【情報提供票より】(19年11月19日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤10人, 非常勤9人, 常勤換算6.7人	

### (2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	68,000円	その他	食費42,000+水光熱費25,000+実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有(期間:2年)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,400 円			

### (4) 利用者の概要(11月19日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	12 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79 歳	最低	67 歳	最高	89 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	斉藤労災病院
---------	--------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは地域の中に溶け込むアパート風の外観で、バス通りから少し入った所に位置している。ホーム独自の理念“希望を実現しよう”を職員全員が共有し、日々の会話、表情から入居者の気持を汲み取りアセスメントに生かし、寄り添ったケアを実現している。ホームでは入居者が手伝いながら昼食の準備を行い、台所は活気があり、暖かな雰囲気があった。法人独自の研修、勉強会も行なわれ、職員を育成する体制が整っている。行政、関連機関との関係は積極的に築かれており、サービスの質の向上に意欲的に取り組んでいる。入居者、職員共に支えあい、安心できる生活をおくっているのが表情から感じられた。災害に備え、消防署や地域との連携により避難訓練の実施の必要がある。また備品の用意、職員の救命救急講習の受講が望まれる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	積極的に運営推進会議や行政等に報告、相談を意見交換を行ない、地域でのホームへの理解に努めている。地域からの理解がさらに深まるよう相互交流を図る工夫に期待したい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の目的、意義を管理者、職員が理解している。自己評価作成を通してケアの振り返りを行い、各々の気づきをサービスの質向上につなげている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議のメンバーは、入居者家族、自治会長、行政職員、訪問診療の職員等で構成されている。ホームの現状、評価結果の報告、事故、ヒヤリハットの報告などをし、意見交換を行っている。積極的に地域、関連機関との関係が築かれており、スムーズに機能している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見、苦情の相談窓口を設けている。運営推進会議、家族の訪問時、又月1回相談員の訪問が有る。意見等には会議等で検討し結果は家族、推進会議に報告されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、夏祭りになどの地域行事に参加している。買い物、散歩など外出の機会を通し、顔なじみが増えてきている。近くの公園の掃除や、ホームのベンチでは、近隣の人と日常的に会話している。避難訓練の実施、小学校との相互交流が行なわれ、さらにホームへの理解が得られるよう期待したい。

## 2. 評価結果 ( 詳細 )

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入り口にホーム独自の理念が掲示されている。『希望を実現しよう』のもと、入居者一人ひとりを尊重した柔軟な支援をめざしている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員ともに理念が理解されており、日常のケアの場で実践されている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、夏祭り等に参加している。近くの大学の学園祭に行ったり、ホームへの訪問があったりとの交流もある。日常的に買い物、散歩などをしており、ご近所に顔なじみも多い。公園の掃除を近隣の人と一緒にやっている。		近くの小学校、近隣の人々との相互交流がより出来ていくよう、様々な方法で働きかけをしていくよう期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を全員が理解している。また、評価の結果について話し合いがされ、改善に向けて取り組まれている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員は自治会長、近隣の方、あんしんケアセンターの職員、診療所の事務長、家族がメンバーとなり、ホームの現状、評価結果、事故報告、などについて報告、意見交換を行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の担当者とは日頃から近況報告、相談等を行なっている。毎月2人の相談員の訪問が開始され、相談員のプロフィールが顔写真つきで紹介されていた。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、家族への便り、状況報告、金銭報告を郵送している。またそれ以外でも随時、きめ細かく連絡をとっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情の窓口を設置している。月1回相談員の訪問が行なわれている。また家族等の訪問の際、意見が言いやすいよう声かけしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新人職員は入居者にきちんと紹介し、ベテランの職員と2人1組でケアに入り、馴染んでもらうようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で行なう研修計画があり、毎年作成・実施されている。また月1回のブロック会議でも勉強会を行なっている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者のネットワークに加入している。また研修などで知り合った他の事業所と情報交換や勉強会、見学をし、質の向上に向け研鑽を積んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前にホームを見学してもらったり、職員が自宅を訪問をしたりして、丁寧なアセスメント、説明を重ね、できるだけ不安なく馴染んでいけるよう努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常的に業務を優先するのではなく、入居者本人の視点に立ち、寄り添ったケアを心がけ、共に暮らす喜びを実現している。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ユニットミーティングを月に1回行っており、職員の意見交換から、入居者の思いや意向を把握している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画を作成するにあたっては、入居者、家族の希望、職員の気づきなどの情報を反映するように努めている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な見直しのほかに、入居者の状態が変化した場合などにはその都度検討し、見直しをしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の状況に応じ、ホームの職員が病院への送迎、付き添いを柔軟におこなっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームへ入居する前からのかかりつけ医にかかりたい場合はそちらへ、ホームの訪問診療を希望する場合はそのように、入居者の意向に合わせて対応している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りまでの支援をしている。家族、入居者の意向を踏まえ、医師、看護師と対応の方針を検討している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者個々の希望やこだわりを大切に生活できるよう、努めている。個人情報に関する書類等は、施錠できるところに保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者がしたいことを聞き、個別性のある毎日が送れるように支援している。一人ひとりへの配慮がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が中心になって調理、配膳、後片付けをしており、職員はさりげなくサポートを行っている。食事中は職員との会話も弾んでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴が可能である。どの入居者にも週3回入浴が出来るように言葉かけを工夫し支援している。介助の必要な場合は同性介助を基本としている。入浴を嫌がる入居者には、一人ひとりに合わせ、足浴であったり、着替えだけであったりする場合もある。お湯はそのつどはりかえている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族より日常してきたことを聞き支援に生かしている。自然な形で入居者と共に洗濯干し、掃除、を行なっている。されない方には無理強いはない。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には散歩に出かけている。出かせない入居者には日向ぼっこなどで外に出るようにはたらきかけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ユニット間は自由に入出入りできるが、玄関には鍵がかけられている。鍵をかけなくても入居者が安全に過ごせる方法を検討しているところである。		職員の見守りを徹底し、入居者が自由に暮らせるようになることが期待される。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近くの交番、消防署には災害時の協力を依頼している。避難訓練は実施されていない。		地域住民の参加や協力を得た避難訓練を定期的に行なうことが重要である。災害時に備えて、備品等の準備が望まれる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは管理栄養士が作成しているが、入居者の好みにも配慮し柔軟に対応している。一日の食事、水分摂取状況がチェック表に記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた暮らせる明るさであり、TVの音量も静かであった。ベランダ前には入居者が育てた花が咲いていた。入居者が思い思いに過ごしている我が家の空間があった。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には名札がかけられ、室内は入居者の使い慣れた物、気に入った物が置かれている。それぞれに居心のよさそうな部屋になっていた。		